

広島テレビとレディオBINGOが電波で合体。遊び心満載の楽しいトーク番組

# 広テレ糸ちゃんの 推しごとLab



第8回は11月16日放送分  
ゲストは…

**辰川 和美** 辰川会グループ  
社会福祉法人さんよう理事長

辰川会グループ  
1978年、福山市霞町に「霞町外科」を開業したのが始まり。福山市野上町の山陽病院・山陽腎クリニック、草戸町の特別養護老人ホームくさどなど、市内に医療・介護施設をネットワーク展開している。本部は同市野上町2-8-2。

糸永 認知症の方がその人らしく尊厳を持って暮らすことができるようにと活躍している、社会福祉法人さんよう理事長の辰川和美さんです。秋は何を楽しんでいますか。

辰川 音楽を聴くのが好きなのですが、先日辰川会グループで地域の方をお招きして音楽会を開きました。楽しかったですね。

糸永 どんなお仕事なさっているんですか。

辰川 私は社会福祉法人さんようの理事長として、高齢者介護の事業を手掛けています。具体的に申しますと、特別養護老人ホームくさど(福山市草戸町)、同じんがい(新涯町)、7月にオープンしたアボーデひかり(草戸町)といった施設、認知症の方がお住まいになるグループホームおひさま(地吹町)、また在宅生活をされている方を支える介護サービス事業所もいくつか運営しております。

糸永 そうしたお仕事をされるきっかけは何だったのですか。

辰川 四五年前、外科医の夫が福山にクリニックを開業しましたが、私は裏方として経営や人事、広報といったことをやっていました。

「ともに歩む、ともに生きる」が私たちの理念ですが、患者さんが高齢化する中、医療だけで支えるのは難しいと思っておりました。2000年に介護保険制度がスタートしたのを受け、医療をベースにしながら介護でお支えするという取り組みを進めるうちに、二〇年近くがたちました。

糸永 辰川さんは地域の情報誌にも連載をなさっていますね。

辰川 「ぐらんふあーま」にね。私のライフワークである認知症のことを、皆さんに知っていただきたいという思いもあって、「認知症のことなら書けるけど」と、足掛け六年になるんです。日常の介護のこと、ケアに関して外国に見学に行った時のこと、家族支援のことなど、いろいろとテーマを変えて書いています。

糸永 介護や認知症について、どんな相談が寄せられますか。

辰川 認知症の方の介護を始めて五年以上になりますが、悩みはそれぞれですね。認知症というのは脳の機能がうまく働かなくなつて、いろいろな症状が出てくるのですが、その人の性格や状態によつても千差万別で、二〇〇人の方がいれば二〇〇通りあります。

糸永 「認知症サポート制度」にも協力されているんですね。

辰川 これは2005年に始まった制度で、認知症のことを正しく知つて支えようという活動です。二〇年近く続くうちに、全国で一四〇〇万人の方が「認知症サポーター」になっています。

だから、地域の皆さんが知恵を出し合つて助け合うということが大事だと思っています。

糸永 「認知症サポート制度」にも協力されているんですね。

辰川 これは2005年に始まった制度で、認知症のことを正しく知つて支えようという活動です。二〇年近く続くうちに、全国で一四〇〇万人の方が「認知症サポーター」になっています。

認知症について知っているだけでなく、ボランティア活動ができるサポーターを養成していくためには、今がターニングポイントかな。当グループでも09年ごろからサポーター養成講座をしてきましたが、新しい気持ちでせつせと講座を開こうと思っています。

糸永 最後に何かメッセージを頂けたら。

辰川 日本は世界に誇る長寿の国ですが、認知症はどうしても避けて通れない。「誰か」の問題ではなくて、全ての人の問題です。医療・介護・地域皆で認知症のことを知り、そして支え合う。私も頑張りますし、皆さんにも理解していただければという気持ちです。